



特別展
名物刀剣 - 宝物の日本刀 -

Meibutsu

— Treasure Japanese Swords —

2011年8月27日(土)~9月25日(日)

[休館日] 月曜日 ただし9月19日(月・祝)開館、翌20日(火)休館

《特別展》 展示室1、展示室2



根津美術館では、今夏2011年8月27日(土)から9月25日(日)まで、特別展「名物刀剣 - 宝物の日本刀 -」を開催します。本展では将軍家や大名家に宝物として伝わった「名物刀剣」を中心に、国宝9件、重要文化財21件、重要美術品3件を含む約50件を一堂に展示します。

「日本刀は武士の魂」といわれ、刀剣は武士にとって最も大切で欠くことの出来ない道具でした。そのため優秀で名高い刀剣、すなわち名刀をもつことが誇りとされ、武家では名刀を家の大切な道具として代々に伝え、家の格式を示す証として重要視されていました。

刀剣に「名物」という称号を用いることが明確に意識されたのは室町時代で、新興の武士は、名物刀剣の蒐集に力を入れました。戦国時代、天下取りに命運をかけた織田信長・豊臣秀吉・徳川家康らも、「名物茶器」と同様に「名物刀剣」を大量に手中に収めることに意を尽くしました。これらは「足利将軍家御物」や「太閤御物」などと呼ばれます。また各地の大名や公家などの名家でも、家に伝わる由緒の品を「御家名物」として大切に後世に伝えました。江戸時代中期に、徳川八代将軍吉宗が本阿弥家に命じて大名や名家に伝わる名刀をまとめて将軍家へ報告させました。後にこれが「享保名物帳」と呼ばれ、これに所載された刀剣は以後、「名物刀剣」としての評価が定着しました。

本展では、名だたる武士が所持したと伝わる日本刀の名物を中心に、「名物刀剣」の発生から展開、評価の定着という流れを明らかにします。

根津美術館では本展開催に際し、刀剣の魅力を充分にご覧いただくため、照明器具を独自に開発しました。これにより光の微妙な角度から生じる鮮やかな刃文や映り（焼入れの技術によって生じる模様）の魅力をじっくりと鑑賞いただけます。

なお、この展覧会は根津美術館（東京）を皮切りに、全国4か所の美術館を巡回します。

国宝 短刀 無銘 正宗 名物 庖丁正宗 1口 鎌倉時代 14世紀 徳川美術館蔵

庖丁正宗と称される名物は3口現存している。刀身の幅が特に広く、厚さは極めて薄い姿をしているのが特徴。これはそのうちでもとくに刃文が大きく華やかな作品である。徳川家康の遺品「駿府御分物」として、尾張徳川家初代義直に伝えられた。

<リリース・広報のお問い合わせ>

担当：鎌倉/朝倉/白原 TEL(学芸・広報/直) 03-3400-2538 / 携帯電話(鎌倉) 080-6622-2536
FAX 03-3400-2436 MAIL: press@nezu-muse.or.jp



重要文化財 三鱗文兵庫鎖太刀 号 北条太刀 1口 鎌倉時代 13世紀 東京国立博物館蔵

兵庫鎖太刀は平安末期から鎌倉時代にかけて流行した太刀拵で、武家の間に賞翫され、寺社への奉納品としても用いられた。本作は最も優れた作品のひとつで、北条氏が伊豆の三嶋大社に奉納したといわれ、同社より明治天皇に献上された。北条太刀の号がある。



重要文化財 黒漆太刀 号 獅子王 1口 平安時代 12世紀 東京国立博物館蔵

柄を黒漆塗りの鮫皮で包み、鞘と金具も全て黒漆塗りにしている。この種の太刀拵は戦闘用として使用された。『源平盛衰記』で源三位頼政が、二条天皇を悩ませた鶴を退治した褒美として賜った獅子王と号する太刀がこれであると伝えられる。



日本刀草創期の名工、京都三条に住む宗近の代表作。古雅で優美な姿は格調が高い。三日月型の刃文がみられ、三日月の号はこれによるものと思われる。古来より名物として知られ、江戸時代初期に秀吉の室、高台院の遺物として秀忠へ送られて以来、徳川將軍家に伝えられる。

国宝 太刀 銘 三条 名物 三日月宗近 1口
平安時代 12世紀 東京国立博物館蔵

－展示照明について－

刀剣の魅力を十分に鑑賞するためには、刀身に対して適切な角度で照明をする必要があります。これまで、むずかしいといわれてきた刀剣の照明ですが、根津美術館では、刀身のすべてをつぶさに観るために、刀剣用照明装置を独自に開発しました。光ファイバーを通してハロゲンスポットライトを作品に近い位置から当て、光の角度を正確に調整したことで、より快適に刀身の美しさをご覧いただけるようになりました。



【巡回】

- ・根津美術館（東京都港区南青山6-5-1）
- ・富山県水墨美術館（富山県富山市五福777）
- ・佐野美術館（静岡県三島市中田町1-43）
- ・徳川美術館（愛知県名古屋市中区徳川町1017）

2011年8月27日（土）～9月25日（日）
2011年9月30日（金）～10月16日（日）
2011年10月22日（土）～12月18日（日）
2012年1月4日（水）～2月5日（日）

[関連情報]

講演会 1「名物刀剣 一日本刀が宝物になるまで」

日時 2011年9月3日(土) 午後2時から午後3時30分
講演 渡邊妙子氏(佐野美術館 館長)

講演会 2「名物と名物刀剣」

日時 2011年9月17日(土) 午後2時から午後3時30分
講演 佐藤豊三氏(徳川美術館 専門参与)

場所はいずれも根津美術館 講堂、定員 140 名

〈申し込み方法〉往復はがきに、希望する「講演会 1」または「講演会 2」、住所、氏名(返信面にも)電話番号を明記のうえ〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1 根津美術館「名物刀剣」展係にお申し込み下さい。「講演会 1」は2011年8月20日(土)、「講演会 2」は9月3日(土)締切(当日消印有効)
※参加希望者1名につき1枚の往復はがきでお申し込みください。応募者多数の場合は抽選となります。
※聴講は無料ですが、入館料をお支払いください。

ギャラリートーク 9月2日(金)、9月16日(金) 解説 原田一敏氏(東京芸術大学大学美術館教授)

※いずれも午後1時30分より約45分間 イヤホンガイドを使って行います。
※当日先着30名様に限らせていただきます。 ※午後1時よりホールにて整理券を配布します。
※入館料を別途お支払いください。

— 同時開催 —

展示室 5「お伽草子絵巻」



賢学草紙絵巻(部分) 室町時代 16世紀 根津美術館蔵

お伽草子とは、室町時代を中心に成立した短編小説で、それを絵画化した絵巻も数多く制作されました。しばしば素朴な画風で描かれるお伽草子絵巻は、中世の文化や風俗、信仰を親しみやすく、生き生きと伝えてくれます。

展示室 6「長月の茶」



秋草蒔絵棗 桃山時代 16世紀
根津美術館蔵

「長月」は九月の異称で、「夜長月」を略したものです。秋の夜長、名月を愛でる月見の茶会を楽しみ、また九月九日は、菊の節句「重陽」で長寿を願います。さまざまな秋の風物詩をテーマにした茶道具約20点を展示します。

[開催概要]

- 【展覧会名】 特別展「名物刀剣 一宝物の日本刀一」
- 【主催】 根津美術館・佐野美術館・徳川美術館・富山県水墨美術館
- 【開館期間】 2011年8月27日(土)～9月25日(日)
- 【開館時間】 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
- 【休館日】 毎週月曜日 ただし9月19日(月・祝)開館、翌20日(火)休館
- 【入館料金】 一般1200円 学生1000円
*20名以上の団体、身障者手帳提示者および同伴者1名は200円引き
*中学生以下は無料
- 【前売券】 一般1000円 学生800円
*2011年7月13日(水)～8月14日(日)「古筆切」展 開催期間中、美術館ミュージアムショップにて販売
- 【アクセス】 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道) 駅下車
A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレータ)より徒歩10分、
B3出口(エレベータまたはエスカレータ)より徒歩10分
- 【住所】 〒107-0062 東京都港区南青山6丁目5番1号
- 【お問合せ】 TEL 03-3400-2536(代表) <http://www.nezu-muse.or.jp>

<次回展>

開館70周年記念特別展

特別展「春日の風景 —麗しき聖地のイメージ—」

2011年10月8日(土)～11月6日(日)

神が住む名所 一奈良・春日。崇高にして風雅な聖地にまつわる絵画・工芸の優品をご覧ください。